

米国科学アカデミー、会員の多様化を模索（5月1日）

米国内で最も名声ある科学学術機関との評価を受ける一方で、会員の高齢化や性別、人種の偏りが指摘されていた米国科学アカデミー（National Academy of Sciences：NAS）が、若手や女性科学者を積極的に会員に加えるなど、イメージの刷新に乗り出した。

本年度選出された新会員は例年の72名から12名増の84名となり、そのうち31%にあたる26名が女性である。これは19名の女性会員を迎えた2005年の記録を破るとともに、前年度の9名という数字を大幅に上回る。

また、新会員の平均年齢も昨年に比べ3.5歳若返り、58歳となった。

会員数や女性比率の拡大、そして平均年齢の低下を目指す最大の要因は、会員の高齢化に伴い、議会や行政府への助言および科学的知見の普及というNASの使命を果たせなくなるのではないかとの懸念が会員の間で浮上しているからだという。

American Association for the Advancement of Science, U.S. National Academy Gives Itself a Facelift

<http://news.sciencemag.org/scienceinsider/2012/05/us-national-academy-gives-itself.html>